

会議の概要

開会 午後 2時00分

五十嵐教育長 それでは時間が参りましたので、令和3年第21回宝塚市教育委員会の会議（定例会）を開催いたします。傍聴希望の方はいらっしゃいますか。

岡本課長 おられません。

五十嵐教育長 それでは、本日の署名委員は望月委員でございます。よろしくお願いいたします。

本日の付議案件は、報告事項2件、議決事項3件、議決事項以外の案件が2件。

なお、本日は篠部委員から欠席の通知を受けておりますので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第14条第3項の規定により、過半数の委員の出席がありますので、本会が成立する旨、報告いたします。

それでは、進行について、事務局からお願いします。

岡本課長 本日の付議案件は報告事項2件、議決事項3件、議決事項以外の案件が2件です。

報告第10号 専決処分した事件の承認を求めることについて（宝塚市公立学校教員の処分内申）

報告第11号 専決処分した事件の承認を求めることについて（職員の懲戒処分）

議案第35号 令和4年度（2022年度）宝塚市公立学校教職員異動方針の決定について

議案第36号 令和4年度（2022年度）宝塚市公立幼稚園教職員異動方針の決定について

議案第37号 令和4年度宝塚市公立幼稚園の園児の定員の変更について

報告事項 令和3年（2021年）10月における宝塚市立学校の「いじめ事案」について

報告事項 令和3年度（2021年度）全国学力・学習状況調査「宝塚市の結果概要」の作成・配布について

なお、報告第10号と11号及びいじめ事案の報告については、個人に

関する記載があるため、非公開での報告とさせていただきます。

審議順につきましては、初めに議案第35号、36号を一括で、続いて議案第37号をご審議いただきます。その後、全国学力・学習状況調査の報告をした後、非公開で報告第10号と11号を一括で、最後にいじめ事案の報告とさせていただきます。

御審議のほど、よろしくお願いたします。

五十嵐教育長

それでは、議案第35号 令和4年度（2022年度）宝塚市公立学校教職員異動方針の決定について、議案第36号 令和4年度（2022年度）宝塚市公立幼稚園教職員異動方針の決定について、担当課より一括で説明をお願いします。

横山課長

議案第35号及び第36号の提案理由について、御説明申し上げます。

本件は、令和4年4月1日に行う公立学校及び公立幼稚園の教職員に係る異動について、その方針を決定しようとするものです。

令和4年度の公立学校教職員異動方針については、第2次教育振興基本計画を踏まえるとともに本市教育への信頼回復に努めるために、昨年度から取り組む学校運営をめぐる諸課題への継続的な対応として内容を大幅に見直し、必要な事項は方針で定めることとし、また実施要領は廃止しています。

まず、基本方針としては、子どもたちの「生きる力」を育む教育理念の下、「自分を大切に 人を大切に ふるさと宝塚を大切に作る人づくり」を基本目標として、学校風土の見直しを図り、組織の充実を図るため、全市的視野に立った公正な人事異動を行うこととしています。

特に、児童生徒が安心して学べる魅力と活力ある学校づくりを進め、保護者や地域から信頼される学校経営ができるように努めるとともに、教職員が働きがいある職場づくりを進め、適材適所の配置、人材育成に努めます。

具体的方針としては、1点目、異動の対象は校長の意見具申を基に職員構成等の適正化に配慮して、原則として現任3年以上在勤した者とします。2点目、新規採用者の異動については、豊かな教職経験を積ませる視点を考慮して行うものとします。3点目、休職中、療養中、派遣中、産前産後

休暇中または育児休業中等の現任校で現に勤務していない者の異動は原則行いません。

まず1点目、異動の対象についてですが、これまでは実施要領で原則として現任6年以上在勤した者としていましたが、在勤年数6年では長期化する傾向を助長しますし、県教育委員会異動方針とも違いますので、こういったことも考慮して、3年以上は異動の対象とすることとしました。

2点目、新規採用者の異動については、これまで実施要領で原則として現任4年としていましたが、年数は削除し、一般教職員と同様の3年を基準に、豊かな教職経験を積ませる視点を考慮して行うものとする事としました。

3点目、休職等の理由で現に勤務していない者の異動は原則行わないことを実施要領で定めていましたが、異動方針で定めることとしました。

次に、これまで異動実施要領で定めていた事項を、異動に当たって考慮する点として定めています。

1点目、広域人事交流については、大学附属学校、県立学校、他市町公立学校との間の広域人事交流による本市公立学校への転任については、有為な人材の交流を積極的に進めます。

2点目、採用については、1点目として、採用候補者は令和4年度兵庫県公立学校教員採用候補者名簿等の登載者とし、この中から本市の教育の発展に貢献し得る人材を採用することとし、2点目として、配置に際しては、その基本的な力量等を培う観点に立って、計画的に行います。

3点目、配置換については、まず管理職については、人物、識見、意欲、管理及び指導能力等について総合的に評価し、配置換を行います。管理職以外の職員については、人事異動希望等を聴取し、長期的展望に立って、経験年数や年齢構成、男女比等を考慮し、計画的に行います。また、指導力を有し、かつ、意欲のある者については、学校と教育委員会事務局等との交流を積極的に図ります。主幹教諭については、各校の教育課題に応じた配置を進めます。特別支援教育については、特別支援学校教諭の免許状取得者の配置を進めます。それから、統合についてですけれども、統合を予定している学校については、円滑に実施できるように考慮します。事務職

員については、同一所属または同一ポストに長期間滞留することから生じ得る不祥事を防止し、併せて士気の低下を防ぐことを考慮する一方、事務職員個々のキャリアに応じた専門性を発揮して、学校におけるマネジメント機能を十分に発揮できるような配置に努めます。

次に、公立幼稚園の教員異動方針についてです。

令和4年度基本方針として、子どもの基本的な生活習慣や道德心の芽生えを培い、学習意欲や態度の基礎となる好奇心などを養うとともに、生涯にわたる人格形成の基礎を培う上で、幼児教育は大切な役割を担っている。また、子どもたちが豊かに伸びていくためにも大切なものであると認識し、幼児教育の機能を強化する視点を持つことが重要であることから、この推進のため、教職員が働きがいある職場づくりを進め、適材適所の配置、人材育成、組織の活性化と充実を図る全市的視野に立った公正な人事異動を行うこととしています。

具体的方針としましては、管理職については、人物、識見、意欲、管理及び指導能力等について総合的に評価し、配置換を行います。幼稚園教諭については、人事異動希望等を聴取し、長期的展望に立って、経験年数や年齢構成を考慮し、計画的に行います。長期療養中等の現に勤務していない者の異動は原則行いません。それから、幼稚園教諭につきましては10年を越えるような長期勤務者がおりませんので、方針に異動年数等は掲げておりません。

これら議案の参考として、兵庫県教育委員会の令和4年度（2022年度）公立学校教職員異動方針と令和4年度（2022年度）県費負担教職員年齢構成等一覧表、それから幼稚園教職員人事異動関係の資料を添付しております。これらについても説明をさせていただきます。

まず9ページ、兵庫県教育委員会の人事異動方針ですけれども、令和4年度の異動方針につきましては昨年度から変更はありませんが、「こころ豊かで自立する人づくり」を推進するため、県教育委員会、市町組合教育委員会連携のもと、「適材適所の配置」「人材育成及び計画的な交流の推進」を基本として人事配置を行い、児童生徒が安心して学べる魅力と活力ある学校づくりや教職員が働きがいある職場づくりを進めることとしてい

ます。

管理職については、市町・県立学校共通事項として、積極的な若手管理職や女性管理職の登用を図ることなどが示されています。教員については、異動対象として原則として現任3年以上在勤した者としています。また、事務職員については裏面10ページになりますけれども、異動に当たって考慮する点として、長期間滞留することが生じ得る不祥事を防止し、併せて士気の低下を防ぐこととしています。11ページをお願いいたします。

令和3年度県費負担教職員年齢構成等一覧表について、説明をします。市内学校の教職員の年齢構成につきましては、上段の表になりますけれども、学校の中軸を担う40代は今年度173人ということで、昨年度の153人から20人増えています。平均年齢も全体で38.4歳と昨年度から0.1歳ですが上がっています。12ページを御覧ください

中段の表になります。教諭の平均年齢の推移になります。昨年辺りが一番底になっておりまして、今年度から徐々に上がっていく見込みとなっています。

次に、男女比ですけれども、そのページの上段の表を御覧ください。全体では、男性が42.3%、女性が57.7%となっています。昨年度との比較では、女性の割合が0.3ポイント増えています。

校種別では、中学校では男性が50.9%、女性が49.1%となっています。こちらも昨年度との比較で、女性の割合が1.2ポイント増えています。小学校では、男性が37.8%、女性が62.2%となっています。こちらは昨年度の比較で、女性の割合が0.1ポイント減っています。

前のページ、11ページへお戻りください。

2段目の右側のグラフを御覧ください。年齢別の男女比としては、市全体では60代を除いたどの年代でも女性の割合が高く、20代と50代では6割が女性となっています。中学校では、50代を除いて男女がほぼ拮抗しています。それに比べて、小学校は50代では女性の割合が70%となっており、そのほかの年代も男性が40%程度ですが、特に20代は31.2%となっています。

各校での状況については資料をつけていませんので、概要だけ説明しま

す。

小学校男性教諭の比率が20%台の学校は現在4校ございます。長尾小学校、西谷小学校、長尾台小学校、美座小学校、この4校です。それから、中学校女性教諭の比率が20%台のところはありませんが、30%台の学校は1校、宝梅中学校がでございます。逆に、男性の比率が特に低い学校として、30%台の学校が3校ございます。西谷中学校、御殿山中学校、山手台中学校となっています。

人事異動においては、これらの状況を念頭に置いて、可能な限りバランスの取れた状況となるよう、人事異動を行っていきたいと考えています。

次に、今後の退職者数の推移ですが、12ページ、下段のグラフを御覧ください。

令和3年度末に19という数字が出ておりますけれども、令和5年度末が一番少なくて7人となっています。大体10人から19人までの幅の中で変動しているというような状況です。

次に、教職員の在籍年数ですが、昨年度人事異動のやり方を変え積極的に異動をしたため、13ページの資料になりますけれども、本年度異動対象となる6年以上の者は全体で29.6%になっております。前年よりも7.4ポイント下がりました。中学校では27.6%、前年よりも11.4ポイント減。小学校・養護学校は30.6%、前年よりも5.4ポイント減となっています。10年以上の長期在籍者は全体で40人、4.5%で、昨年よりも34人の減、4ポイント減となっています。中学校では17人、5.9%で、9人減、3ポイント減。小学校・養護学校では23人、3.9%となっており、25人の減、4.3ポイントの減となっています。また、新規採用者のうち、4年以上の者は全体で181人、20.5%で、昨年と比較して57人の減、6.5ポイント減となっています。中学校では42人、14.5%で、30人減、10.5ポイント減です。小学校・養護学校では139人、23.5%、27人減、5.5ポイント減となっています。

10年以上在勤している者の主な理由は、産休を取得している者、していた者などによるもので、昨年までのように合理的な理由なく在籍すると

というような者は現在おりません。また、個別の事情として、中学校の教員の異動については、教科、部活、生徒指導などの主要な校務分掌についてそれぞれの学校での事情があり、異動がさせにくいという状況がございます。小学校では1年生から6年生までの持ち上がりにはなっていませんが、各学年の中心を担う者であることや、中学校と同様、校内の主要な校務分掌に担当していることから、長期化する傾向にあります。また、特別支援学級の担任については、指導の継続性の面から長期化する理由の1つとなっています。

最後に、幼稚園教職員人事異動関係について、15ページになります。

下の6番のところですが、年齢別の人数です。教諭の年齢構成としては20歳から24歳のところと35歳から39歳のところが少なくなっており、10%台となっています。40歳以上は全て係長級等の役付となっています。

それから次のページ、16ページの7番、経験年数別人数です。4年までの者が全体の3分の1となっており、やや経験不足の様子が見て取れます。

在園年数別人数についても、17ページの9番ですが、全員が4年以下となっています。それから新規採用後、異動のない者の在籍年数別人数についても、全員が4年以下となっています。

資料については、以上でございます。よろしく御審議いただきますようお願いいたします。

五十嵐教育長

ありがとうございます。

では、来年度の教職員の異動方針について、何か御質問等ございますか。
木野委員どうぞ。

木野委員

以前は異動方針と別に実施要領があったんですね。それはもう今回廃止ということですね。記憶が曖昧な部分もあるんですけど、10年以上は云々とかいうのは、市の実施要領に記載があったんですかね。

横山課長

昨年の分でいきますと、異動方針に出ていたと思うんですけど、異動方針で「特に積極的に異動する」という文言に、昨年度修正をしたと思います。

- 五十嵐教育長 昨年度と比べて違っているところを言っていただけませんか。
- 横山課長 昨年度は、具体的方針の中で同一校における長期勤務者及び新規採用者の異動を積極的に進めると、また同一校の勤務年数が10年以上の者については、特に積極的に進めるという言葉で掲げておりました。今年は10年以上はもう書いていないということです。
- 高田室長 今年入れてないのは、実はもう昨年度で異動させるべき長期勤務者は概ね異動ができて、確かに10年以上は残っているんですけども、産休とか育休とかそういう事情があって異動できない人ですので、概ね、その10年という目標が達成できたということと、昨年は新規が4年でそれ以外が6年、それとその長期の10年という3つの基準があったんですけども、県はもう3年の1つしかありませんので、できる限りその辺はシンプルな基準で、あとはこちらの人事権の範疇ですので、全てはこちらの人事権に委ねてもらおうというそうした目的があって、今回は至ってシンプルな方針にしたという、狙いはそこにございます。
- 五十嵐教育長 具体的方針が、昨年と今年では変わっているということですね。
- 望月委員 教員ではなくて事務職員にも、県では3年以上という数字が具体的に出ているんですけども、市では特にそれは書いてないというこの違いというのは。そんなに違いがあるものではないと思うんですが、一応県の3年以上在勤した者を異動対象者にするということだと思うんですが、それはほぼ同じように運用するというのでしょうか。
- 横山課長 こちらの異動方針に3年ということで教職員全てを含めておりますので、特に区分はしていないということです。
- 望月委員 分かりました。
- 松浦委員 学校訪問をさせていただいたときに、今年はすごく大きな異動で現場が混乱したというような意見も出ていたんですけど、今年のこの基準でいくと異動規模というのはどうなるのでしょうか。昨年と同様のような、もう少し昨年よりは異動としては抑えられるというような見込みとかはありますか。
- 横山課長 人数的なものということでしょうか。昨年までは比較的長期勤務者のほうが多かったですので、それを大分動かしましたから、今年度人数的にはもう少し落ち着いてくるかなというふうには思います。

あと、昨年度課題がありまして、栄養教諭とか事務職員とか専門職については各校に1人しかおりませんので、自分で異動を希望してもなかなか動けないという状況がありまして、動くときには結構いっぺんにガラガラと動くという状況がありまして、今年度は栄養教諭がかなり動きましたので、そういう影響なんかもあったと。1人だけ希望されても最低2人以上いなかったら異動ができませんので、そういう状況で今までたまっていたものを大分動かしましたので、当然そういう影響があったということです。

五十嵐教育長

ほかに何か御意見、御質問はございますか。

昨年度の異動は、本当にかつてない大幅なものだったんですけども、今年度はそれに比べれば落ち着いてくるとは思うんですけども。

では、この件についてはよろしいでしょうか。ほかに御質問、御意見はございませんか。

委員

(なし)

五十嵐教育長

それでは、議案第35号 令和4年度(2022年度)宝塚市公立学校教職員異動方針の決定について、議案第36号 令和4年度(2022年度)宝塚市公立幼稚園教職員異動方針の決定について、これらについては原案どおり可決いたします。

それでは、続きまして議案第37号 令和4年度宝塚市立幼稚園の園児の定員の変更について、担当課より説明をお願いします。

今社課長

それでは、議案第37号について、御説明申し上げます。

本件は、本年第14回の宝塚市教育委員会において園児の定員を決定し、その後、前回第20回の教育委員会において定員を変更いたしました。仁川幼稚園の2年保育における定員を2学級60人から1学級30人にさらに変更を行うものです。

当該園の2年保育における令和4年度の在園者数は、進級児が18人、新規就園児が13人の合計31人の予定でしたが、新規就園児のうち1人について入園辞退の届出があり、在園者の見込み数が30人となったため定員を変更するものです。

この変更によりまして、令和4年度の宝塚市立幼稚園の2年保育の定員は、11学級、330人となります。

今回の変更に伴い、12月に行う園児の追加募集では、仁川幼稚園の2年保育について募集を行わないこととなります。説明は以上です。よろしく願いいたします。

五十嵐教育長 ありがとうございます。

それでは、ただいまの件について、何か御質問はございますか。

委員 (なし)

五十嵐教育長 よろしいでしょうか。すみません、これは絶対もう増える可能性はないという見込みでのことですよ。

今社課長 一定期間の募集を経て決定しておりまして、あとはもう辞退ということだけですので、教職員の数字にも関係してきますので、この定員でいきたいと考えております。

五十嵐教育長 30人ということはぎりぎりじゃないですか。例えば1人の方が「入れて」と、もしも今後そういうことがあっても締め切ったからもう終わりですということで、それは受け付けないということですね。

今社課長 はい。本日定員を決定いただければ、そうなるということです。

五十嵐教育長 分かりました。

高田室長 例えば仁川であれば末成幼稚園等がありますので、そちらをご案内していくということになります。

五十嵐教育長 ということです。

ほかに何か御意見、御質問はございますか。よろしいでしょうか。

委員 (なし)

五十嵐教育長 それでは、議案第37号 令和4年度宝塚市公立幼稚園の園児の定員の変更については、原案どおり可決といたします。それでは、続きまして報告事項に参ります。

報告事項 令和3年度(2021年度)全国学力・学習状況調査「宝塚市の結果概要」の作成・配布について、担当課より説明をお願いします。

山口副課長 令和3年5月27日木曜日に実施されました全国学力・学習状況調査につきまして、結果速報を9月9日、それから9月28日開催の教育委員会(定例会)にて御報告をさせていただきました。

本年度も教育委員会事務局メンバーとそれから大学教授による学力調査

分析チームによって分析を進め、このたび「宝塚市の結果概要」という形でまとめさせていただきましたので、御報告をいたします。

なお、このデータは宝塚市教育委員会のホームページに掲載をして、どなたでも見られるようにいたします。また、市立小・中・特別支援学校の保護者と、それから幼稚園、小・中・特別支援学校の教職員には文書で紹介をいたします。

それでは、お手元の冊子の1ページ目から御説明をさせていただきます。

1ページ、1番目には調査の目的を、2番目には調査の対象人数ですとか調査概要を、それから3番目には本市、本県、全国の各教科の平均正答率と全国平均とを比較した宝塚市全体の傾向を掲載しております。小学校国語、算数それから中学校の国語に関しては、この指標で言えば「おおむね良好」。中学校数学は「良好」という調査結果となっております。

次に、2ページ、3ページを御覧ください。

2ページ、3ページにつきましては、質問紙調査結果より「学習に対する関心等」「規範意識・自己有用感等」「生活習慣・学習習慣」「各教科の調査時間の適切性」「新型コロナウイルスの感染拡大で休校していた期間中について」の領域に関する質問に対して、「当てはまる」もしくは「どちらかといえば、当てはまる」と肯定的に回答をした児童生徒の割合を掲載しております。

結果は、どの領域でもほぼ全国並みの項目が多くなっております。例年は「規範意識・自己有用感等」の領域における肯定的な割合が低いということが本市の課題でありました。本年度も昨年度に引き続き「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対しては、肯定的に回答した児童生徒の割合が高くなっているのですが、「将来の夢や目標を持っていますか」ですとか「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」といった質問においては、割合が低くなっております。

これについては、やはり課題であると認識をして、引き続き事務局としても取り組んでいきたいと思っております。

また、「各教科の調査時間の適切性」の領域における質問から、「解答

時間は十分でしたか（国語）」というこの割合については、やはり全国に比べて低くなっています。これは後ほどお伝えするのですが、教科に関する調査結果の無回答率というところとも関係をしていると考えられます。今後この原因や改善の点を各校でも分析していただきたいと考えております。

続きまして、4ページを御覧ください。

4ページについては、質問紙調査結果より「ICTを用いた学習時間等」の領域に関して、利用時間ごとの児童生徒の割合を示しております。テレビゲームをしている時間が、中学校3年生は全国と比べて4時間以上の割合が高くなっています。それに対して、ICT機器を勉強のために使っている時間については、ほぼ全国並みという形になっています。今年度よりタブレットパソコンを市内全児童生徒に貸与したことからICT機器の勉強での活用については高まっていくものと考えてはおりますが、学校や家庭でも状況を把握していただき、有効な活用につなげていただきたいと考えています。

また、5ページにつきましては、アクティブラーニングの実施率及び平均正答率との相関について掲載しております。主体的な学びそれから対話的な学びの質問に対して、肯定的に捉えているほうが平均正答率は高くなる傾向になっております。このことから、主体的で対話的な深い学びというものを構築できるような授業づくりというものが、そのまま学力向上というものにも繋がっていくということが分かっております。

続きまして、6ページから9ページにかけては、教科に関する調査結果より分かったことを掲載しております。

小学校国語、それから小学校の算数、中学校の国語、中学校の数学という形でそれぞれページに載せております。

それぞれの教科で学習指導要領の領域別に本市と全国の正答率を表し、「宝塚市の傾向」、それから「よくできていること」「課題と学びのポイント」という形でまとめました。

どの教科に関しても全国や兵庫県の平均値を上回っている領域が多い結果になっておりますが、課題も幾つかございます。

例えば、小学校・中学校の国語に関しては、各問いに関して無回答率がやはり高くなっています。この無回答率の高さについては、今後も学力調査分析チームで分析をしていきたいと考えております。

教職員には「学びのポイント」、一番下のところですが、こういった形で改善をしていったらどうですか、という提案ですが、学びのポイントで示した授業方法ですとか、国立教育政策研究所から提案されている授業アイデア例を参考にしながら、授業改善等に繋げることで、課題の克服に努めていただきたいと考えております。

それから、最後の10ページにつきましては、宝塚市の児童生徒の学習と生活の充実のために、第2次宝塚市教育振興基本計画の基本目標や重点施策を紹介し、教育委員会として取り組む方向性を示しております。

この宝塚市の結果概要は、宝塚市教育委員会のホームページに掲載するとともに、宝塚市立小中学校を通して児童生徒、保護者、教職員に紹介するとともに、広く市民の皆さんにも見ていただけるようにしていきます。

教職員においては、宝塚市の教育課題を共有して、幼・小・中の連携を意識した取組の参考資料にもしていきます。

今後も、子どもたち一人一人を大切にする教育をより一層推進して、「ふるさと宝塚を大切にする人づくり」に取り組んでまいります。

説明は以上です。

五十嵐教育長 ありがとうございます。ただいまの学習状況調査の結果概要について、御質問等ございませんでしょうか。

木野委員 質問ですけど、4ページとかのアンケート、これは本人が回答するということでよろしいですかね。

山口副課長 はい。

木野委員 次は質問じゃなくて感想ですけど、この中学生のゲームの時間、4時間以上が18.8%というのがすごく気になったんですけど。何か考えられるようなことがありますでしょうか。

五十嵐教育長 中学生が4時間以上の割合が高いですね、宝塚は。そのことについて、何か分析あるいは考察として考えられることはあるんでしょうか。

辻本室長 具体の状況というのは、正直把握まではできていないんですけども、現状

の子どもたちが使用しているスマートフォン、携帯等でのゲームの量が増えていっているんだろうということは推測されます。

五十嵐教育長 みんな持っていますからね、スマホは。だとしても、それは全国的な傾向だと思うので。

辻本室長 あと、例えば学習塾に向かうについても、その道中でもゲームはしているという子どもたちもいるのかなというふうに思っています。

木野委員 続けて、同じテーマですけれども、小学生は低いですよ。4時間以上が、全国でも。これが中学生で上がっているのが、やはり何か理由があるんじゃないかなという気がしてならないんですけれども。例えば、小学生も中学生も同じ傾向だったら宝塚市の傾向だとか、ある市だったらもしかしたら小学生も中学生も全国より高い市もあるかもしれないですけど、それはそれで問題ですけど。そういう、うちの市はそういう傾向なのかなということになるんでしょうけども。小学生で少ないのに中学生で上がっているというところは、そう簡単に分析できるものではないとは思いますが、例えば、特に当市は比較的教育熱心な家庭も多いですしね。塾へ行っているところも多いですし高校受験を、中学3年生ですから受験勉強とかをいっぱいさせられている。させられているというか、自主的にしているのか、させられているのか分かりませんが、そういう圧力の中でそれがストレスになってこういうゲームに逃げるといいますかね、そういうような現象が起こっているんじゃないだろうかなというのは少し危惧しますね。

望月委員 生活習慣で、睡眠時間とかは聞いているんですかね。中3ぐらいになると睡眠時間削ってゲームをやっているのかなという、そういう感じがしますが。睡眠時間は聞いてなかったでしたかね。朝食とかはもちろん聞いていたと思うんですけども。

五十嵐教育長 質問紙の中にありますよね。昨年度までは、この概要の中に質問紙の中の結果として睡眠時間とか、それから食事を取っているか、あるいは読書の時間とか、家で宿題やっている時間とか、そういうものをピックアップしてやっていたと思うんですけども、今回そこはないので、ひょっとしてこのゲームに使っている時間が今睡眠時間に影響が出ていないかという御質問もあったんですね。

- 望月委員 全国規模よりも睡眠が短かったら、そこだなと思うわけですね。
- 五十嵐教育長 それは今すぐ分かりますか。
- 山口副課長 すみません、今の結果概要の3ページを御覧いただけたらと思います。
- 真ん中の「生活習慣・学習習慣」のところに「朝食を毎日食べていますか」それから「同じくらいの時刻に寝ていますか」「起きていますか」それから「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」ということの、それぞれの全国と市の平均というものを掲載させていただいています。
- 木野委員 睡眠時間という質問項目はないんですね。
- 山口副課長 睡眠時間自体はないですね。
- 望月委員 乱れているかどうか、毎日ゲームをやっていて短ければ、毎日同じぐらいに寝ていると言うかもしれないので。
- 五十嵐教育長 でも、同じぐらいの時刻に寝ていますかの割合が全国より低いということは、多分これ同じぐらいの時間よりも遅くなっているという意味合いが強いのかなという気はしますけど。事実は分かりませんが。
- 松浦委員 先日、教育長と一緒にさせていただいた研修で、結構衝撃的なスマホの使用時間と脳のお話だったんですけど、脳は大体5歳までで発達完了をするんですけど、前頭前野の部分には思春期にもまだ発達する部分があって、スマホを長時間使用しているとその部分の発達が止まってしまうという。これはもう明らかにきちんとした調査の結果が出ているという内容のお話です。ですので、長時間ずっとスマホを使っていると、恐らく認知症の発症とかも今後どんどん早くなっていくだろうというようなお話でした。子どもたちにスマホを長い間使ったら駄目と言っても、まず止められない。なので、実際に脳とスマホの使用時間との相関関係のデータを子どもたちに考えさせるということで「なるほど、スマホが脳にこんなに悪いんだな」というのを子どもたちが自覚することで、スマホの時間を短くしていくというようなことをおっしゃっていましたので、ぜひ参考にさせていただけたら。学力云々だけの話ではなくて、すごく大きな問題だなと思って聞きましたので。
- 五十嵐教育長 講師の先生のお名前、何でしたっけ。
- 橘部長 川島先生、東北大学ですね。
- 松浦委員 大学のところに、ホームページのところにもたくさん調査結果のデータが

出ているそうです。

五十嵐教育長 私も講演を聴かせていただいたんですが、川島先生が長年、仙台と兵庫県の小野で10年以上継続的に統計を取られていて、その結果が衝撃的だったんですけども、仮にスマホを毎日4時間以上やっていたとすれば、その子は幾ら日に4時間5時間勉強しても、スマホを全く使わないで普通に勉強している子よりも成績が悪いと。そこまで言われたら、本当にスマホの影響というのはすごいんだなと。それは脳の発達との関係でそういうことがあるということと言われましたので、この表からいくとやはり宝塚の中学生はこれほどゲーム、スマホを活用している、利用しているということが分かるとすれば、今委員がおっしゃったように、中学生なんかにはそういう統計をちゃんと読ませればこれはどんな影響をするか自分で理解できると思うので、そういう先生が語るというよりも、子どもたちに統計資料を読み取らせるというような取組があってもいいのかなと私も思いますので、ぜひそういう御提案もしていただきたいなと思います。

御質問、御意見も取り混ぜて、このことは皆さん御意見があるかもしれませんが、今回の学力調査の結果については。

橘部長 先ほど木野委員が、小学生の割合が少なくて中学校が多いというところですけど、小学生はまだ保護者の方が「ゲームは一日何時間ですよ」とか、そのコントロール下にあるような気はします。中学生にいくと、逆に思春期にどんどん入っていきますので、そのところは保護者も抑えられないというところで行くところまで行っている子がいるのかなというふうに思うんですけども。

木野委員 それは全国同じ傾向があるとは思んですけどね。そういう点ではね。

橘部長 ただ、6年生ですね。私立の学校を目指している子なんかは、恐らくやっている暇がないくらい毎日阪急電車でも遅い時間に乘っていたりしますし、そんな子ばかりではありませんけど。

木野委員 逆にそっちの可能性も。

五十嵐教育長 中学校になって急に伸びるというよりは、小学校で抑えられているという。

橘部長 抑えられているのもあるし、時間的にそれがないというか。でも、一部の子に限られますけど。

- 木野委員 平日というのが驚きました。私、見直しましたもん。休日かなと思って。そしたら月曜から金曜日ということで、驚きましたけど。びっくりですね。2割近いというのがね。
- 五十嵐教育長 3時間以上になったら3割ですね、3割超えますよね。2時間以上になると、もう半分以上。
- 橘部長 市内の小学校、中学校のゲームで課金して、百何十万という請求があったとか、もっと高額な請求があったとかというのが、この前消費生活センターから聞いて、定例校園長会ではそういう事例がありましたということはお知らせしたんですけども。結構親の、おじいちゃん、おばあちゃんも含めてそのカードをなりすまして自分で使っているというような。課金するのに入れますよね、カード番号とか。それもちょうど知っているの、入れて課金していたとか、そういうことがあったと聞いていますので、もう大人の領域を超えた中でいろんなことを子どもがするということを知った上で、教育を進めていかないといけないというふうに思います。
- 五十嵐教育長 4ページのグラフですけど、上は平日1日テレビゲームをやっている時間で、下は平日1日スマホなどを使って勉強のためにどれだけ使っているかという質問ですね。ということは、スマホやパソコンを使ってテレビゲームと勉強のために使ったのを合わせれば、またそこに向かっている時間というのはさらに増えていくわけですね、子どもたちの。何か、それは外で子どもたちがいないわけですね。みんな多分ここで時間を費やしているということになるわけでしょうね。
- さて、これを保護者の方々にも広くお知らせしたときに、ここではかなり皆さん問題意識を持って見ていただいているんですけど、皆さんがそういうふうに見ただけかというようなところは少し気になるので、もし付け足せるとすれば、ここに何かそういう「これはなかなか問題ですよ」みたいなことは付け足せないでしょうか。これはもう形として出来上がってしまっているわけですかね。そこはどうですかね。例えば、もう印刷に回しているとかなら別ですけど、今回冊子にするとかそういうことはないわけですね。データであるわけでしょうから、多少もしここで委員の皆さんから意見を聞いて、少しこういう部分を付け足すということがあ

れば、それはまだ可能ですか。

山口副課長

はい。

五十嵐教育長

ということですので、もし各委員の皆さん、ぜひともここをもう少し強調してほしいとか、全部入れ替えるそういうことは無理ですけども、このポイントとして少し言葉が欲しいとかいうのがあれば、御意見を出していただければと思います。

では、私から言わせていただきたいんですが、10ページ、最後のページの下段落のところですが「この結果概要は、本市の児童生徒の結果を分析し、多くの方々に御覧いただくことで、今後の本市のよりよい教育のために生かしていくことを目的として作られている」と書いているので、児童生徒の結果を分析したという辺りですね、ざっと今見せていただいて4ページもそうですが5ページについてもアクティブラーニングとの関係をグラフで示していただいて、例えば吹き出しのように「中学校では当てはまるの回答が全国より8ポイントも低い、「主体的な学び」に向けた授業改善が必要」という一応分析があるんですが、それぐらいでその下に「当てはまると回答した児童生徒の平均正答率が高い」という、結果ですよ、これは。その下も「「伝えていた」と回答した児童生徒の平均正答率が高い」、次に「相手の考えを聞き、自分の考えをしっかりと伝えるといった力を育む授業改善が求められる」これは上の吹き出しでいう分析みたいなものでしょうけれども、もう少しこのデータを考察した意見が欲しいなと思います。できれば、上のこのグラフにある吹き出しのような形でポイントに、ここが問題なのでこんな改善が必要だというようなことをコンパクトに御提示いただけたら、見ている人も分かりやすいかなと思います。

同じく、2ページ、3ページの質問紙の結果についても、並べられていますから全体の傾向は分かるんですけども、先ほどの「学校に行くのは楽しい」と答えてくれてはいますが、地域の学校外での行事に参加するとか、自分に夢があるかというのは、これはまだまだ高くはないと。ということは、やはりそういう勉強勉強ばかりじゃなくて、もっと社会と関わるというようなことが必要じゃないかとか、先ほどの寝る時間についても同じぐ

らの時間に寝起きしているかというのは全国から少しポイントが低いということは、それはひょっとしたら生活の乱れということに繋がらないかとかね。ここからでも一定の読み取りはできると思うので、そういうコメントはもう少しあってもいいのかなという気がいたしました。

これをもう作り変えるとかじゃなくて付け足せば、そういうことがお願いできないかということです。

ほかに何か御意見、御質問ございますか。

ざっくりと一昨年と今年とで何か大きな変化みたいなのはありましたか。

辻本室長 大きな違いが出てきているということは、捉えてはおりません。

五十嵐教育長 良かったです。何か変化があったとすれば、コロナ禍もありましたし、何があったんだろうとまた考えないといけないところですけど。学力等の状況については、そういう大幅な変化がなく、ただ課題はこのように幾つか見えているということですね。

すみません、もう一つ。最初の説明のときに、教職員には文書で報告するみたいなことをおっしゃったような気がするんですけども、これはどういうことですか。データじゃなくて。

辻本室長 文書でこれを出しましたという案内をさせていただくということです。

五十嵐教育長 文書でデータを見てという。どこを見ればいいんですか。

辻本室長 教育委員会のホームページです。

五十嵐教育長 保護者にも教職員にも、ホームページに載っているのを御覧くださいということですね。何か付け足しありますか。

辻本室長 今後、子どもたちに向けて、これも踏まえたところで学習のポイント等を作成していく「スタディ・ナビ」という、これは毎年作っているところになっております。こういったところを作成して、これについては子どもたちに今回貸与しております、タブレットから見てもらえるような形を取っていきたいと思っております。

五十嵐教育長 その「スタディ・ナビ」は、また今回の結果を受けて今年度版を作られるということですか。

辻本室長 そうですね、はい。

五十嵐教育長 教育委員会でもそれは紹介していただけますか。

辻本室長 はい、御提示させていただきます。

五十嵐教育長 分かりました。何か御意見、御質問ございませんか。

今年度から、本市も正答率をきちっと示すということが大きな変化だと思います。より分かりやすくお示ししているという趣旨でございます。

それでは、ありがとうございました。

引き続きまして、これからのことは非公開の事案になりますので、よろしく願いいたします。

それでは、報告第10号 専決処分した事件の承認を求めることについて（宝塚市公立学校教員の処分内申）、報告第11号 専決処分した事件の承認を求めることについて（職員の懲戒処分）を一括して担当課より説明をお願いします。

【 非公開での報告事項あり 】

五十嵐教育長 ありがとうございました。本日の予定の案件は以上ですが、ほかに何か御報告いただくことはございますか。

岡本課長 ございません。

五十嵐教育長 それでは、本日の教育委員会を閉会いたします。

どうもありがとうございました。

閉会 午後 3時15分